

2005年11月29日 ウマ科学会一般口演

韃馬競走からばんえい競馬へ 1960年の資料より

古林英一(北海学園大学経済学部)

a-ichi@mba.nifty.ne.jp
http://homepage2.nifty.com/a-ichi/

はじめに ばんえい競馬とは？

- 日本独自の馬事競技
- 公営競技(プロスポーツ)
- ローカル色が強い
 - 北海道の「馬文化」 文化的意義
 - 興行的不利性
- 重種馬の生産と不可分
 - 結果としては大部分が馬肉用となるが...

本報告の問題意識・課題

- なぜ、ばんえい競馬が公営競技として確立し得たのか？
 - 1960年頃までに多くの地方競馬は消滅
 - ばんえい競馬は1960年代を通じて発展

公営競技としての競馬の存立条件

競走資源としての馬・人の存在

競技体系・ルールの確立

馬券需要の存在

本報告では特に 〃に注目

なぜ1960年に注目したのか？

- 多くの地方競馬場が閉鎖した時期
- ばんえいは開催日数を伸ばしていた
- プロ的競技者・競走馬の萌芽が見られる
- 輓馬大会的色彩も依然として濃厚

1960年頃は輓馬大会からプロスポーツ化への過渡期であった

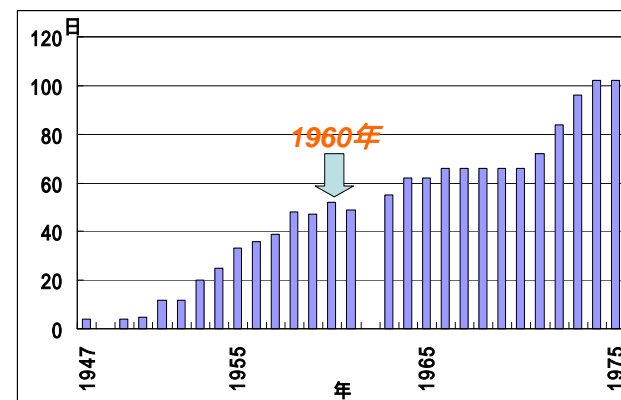
ばんえい競馬の歴史(1)

- 農民娯楽としての輓馬競走が前身
北海道のばんば大会
東北地方の馬力大会
- 1946年 地方競馬法に「輓曳」の規定
北海道の他、青森県でも施行
- 1947年 馬連主催で初のばんえい競馬
- 1949年 から北海道が主催
- 1953年 市営競馬発足

ばんえい競馬の歴史(2)

- 1963年 旧旭川競馬場に直線コース完成
- 1964年 クラス分けに体重制導入
- 1967年 市営は輓曳、道営は平地に分離
- 1968年 北見・岩見沢・帯広も直線走路に
- 1968年 市営競馬協議会発足
- 1971年 鉄製橇、グラスファイバー製舵棒など
- 1973年 取得賞金制の導入
- 1974年 開催日数が102日(本格的にプロ化)

開催日数の推移



出所:「まんがばんえい競馬読本」など

1960年のばんえい競馬
開催地・開催日数

	市営	道営	計
旭川(220m)	10	10	20
岩見沢(210m)	6	3	9
帯広(210m)	8	6	14
北見(200m)	6	3	9
計	30	22	52

当時のコースは全てU字型
開催期間: 6/4 ~ 10/25 ... 約5ヶ月間

1960年のばんえい競馬 番組編成
4日間開催(10/22~10/25道営旭川の例)

	実頭数	出走延べ頭数	平均出走回数
甲	16	49	3.06
乙	21	77	3.67
丙	49	162	3.31
丁A	36	117	3.25
丁B	59	142	2.41
三才	32	108	3.38
計	213	655	3.08

1960年のばんえい競馬 番組編成
4日間開催(10/22~10/25道営旭川の例)

	10/22	10/23	10/24	10/25
丁B	2(32)	3(46)	2(32)	2(32)
丁A	2(30)	2(29)	2(29)	2(29)
丙	3(45)	2(32)	3(43)	3(42)
乙	2(20)	2(19)	2(19)	2(19)
甲	1(15)	1(9)	1(12)	1(13)
三才	2(28)	2(27)	2(27)	2(26)
合計	12(170)	12(162)	12(162)	12(161)

注: レース数(出走頭数)

出所: 「昭和35年成績書綴」

1960年のばんえい競馬 番組編成
3日間開催(10/15~10/17道営帯広の例)

	実頭数	出走延べ頭数	平均出走回数
甲	6	19	3.17
乙	9	26	2.89
丙	13	39	3.00
丁A	22	49	2.23
丁B	51	123	2.41
三才	16	43	2.69
計	117	299	2.56

出所: 「昭和35年成績書綴」

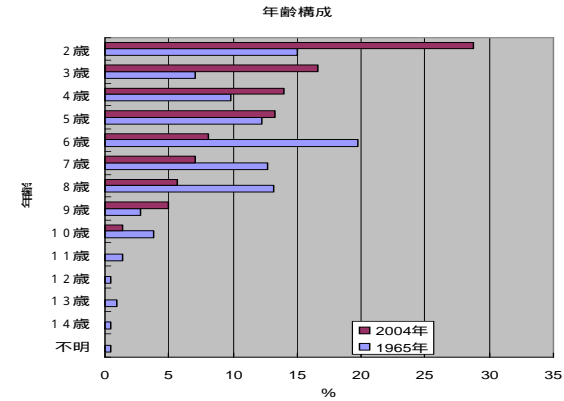
1960年のばんえい競馬 出走馬

	頭数	構成比
甲	21	2.0
乙	54	5.2
丙	168	16.2
丁A	200	19.3
丁B	448	43.2
三才	146	14.2
計	1,037	100.0

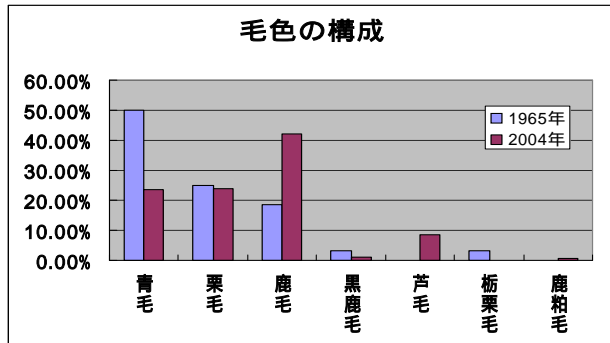
- 3才馬の比率が低い
(cf.2004年 30.1%)
- 総頭数 1,037頭
(cf.2004年 731頭)

出所:「昭和35年成績書綴」

1960年のばんえい競馬 出走馬



1960年のばんえい競馬 出走馬

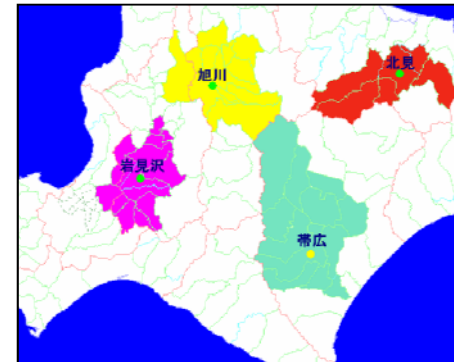


注: 2才馬の比較(1960年は10月旭川出走馬, 2004年は同時期の北見開催時)

出所:「昭和35年成績書綴」・2004年NARサイト

1960年のばんえい競馬 出走馬

開催地と「管内」範囲



1960年のばんえい競馬 出走馬

10月旭川出走馬の地域的分布

	頭数	比率
管内	109	51.2
管外(上川支庁)	46	27.2
管外(その他)	58	21.6
計	213	100.0

注) 管内 = 現在の和寒町, 比布町, 旭川市, 深川市, 美瑛町

地元馬中心で競馬開催

出所: 「昭和35年成績書綴」

1960年のばんえい競馬 騎手・馬主

騎乗回数	人数	備考
1	52	
2	20	
3	7	
4	7	
5	0	
6	1	中西関松
7	2	上田吉隆・山本幸一
8	1	松原仁三郎
計	169	

いずれも後に調教師(調教騎手)

169頭中61頭は馬主が騎乗

出所: 「昭和35年成績書綴」

1960年のばんえい競馬 騎手・馬主

- 1959年の騎手免許申請者は**207**名
- 年齢階層 60代 ~ 20代
- 職業 農業・馬追業・運搬業が殆ど

ほぼ全員が「アマチュア的」競技者

出所: 「昭和34年騎手免許申請者綴り」

1960年のばんえい競馬 報償金

- 1Rあたり平均賞金額 17,540円 ()
- 最下級条件戦1着賞金 4,000円
- 出走奨励金
3,000円(管外甲級) ~ 400円(管内丁級)
- 着外賞金 500円
- 繋養奨励金 外厩馬 1日 70円

52日間のうち1日分データが欠如しているので51日分の集計

出所: 「昭和35年度概定番組綴」

1960年のばんえい競馬 報償金

	1960年 (A)	2004年 (B)	B / A
最下級条件戦 1着賞金	4,000円	200,000円	50.0
<参考> 大工手間賃	800円	18,640円 (2001年)	23.3

大工手間賃を基準とすれば当時の最下級条件戦の1着賞金は**93,200円**程度が

副業的収入しか期待できない水準？

1960年のばんえい競馬 報償金

	開催 日数	入場人員 (人)	売得金額() A(円)	賞金額() B(円)	B / A ()
旭川	20	25,152	109,935,600	4905700	4.46%
岩見沢	9	6,081	17,793,700	1,364,800	7.67%
帯広	14	11,313	50,034,600	2,880,700	5.76%
北見	9	6,946	30,099,500	1,583,400	5.26%
計	52	49,492	207,863,400	10,734,600	5.26%

データ欠如分を除く51日分で集計

出所:「昭和35年度成績綴」

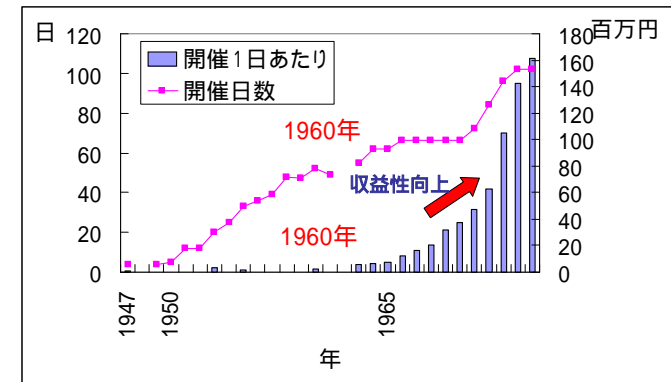
1960年のばんえい競馬 報償金

旭川管内の丁B級馬
馬主騎乗で5回旭川に出場
3走してすべて着外だった

出走奨励金	400円
繋養奨励金	420円 (70円×6日間)
騎乗奨励金	450円 (150円×3日間)
着外賞金	1,500円 (500円×3走)
計	2,770円

大工手間賃を基準とすれば現在の64,541円くらいに相当

1日あたり売得金の推移



出所:「まんがばんえいどくほん」など

まとめ

- 使役馬(農耕, 運搬など)が豊富に存在・・・1950年代
 - 靱馬大会の存在 = 競技のルール・競技者の存在
 - アマチュア競技者・馬による公営競技開催
- 使役馬の急激な減少・・・1960年代
 - ばんえい競馬の興行的成功
 - 競技者・馬のプロ化(専門化)
 - 馬産のインセンティブ形成 競走馬生産or馬肉という生産形態へ
- 競走馬・競技者の変化
 - 競走馬の品種改良
大型化, ベルジャン導入など(1970年代~)
 - 競技者の職能分離(近代化?)
騎手・調教師・馬主の分化(制度的整備)

参考資料・文献など

- 内田靖夫『ばんえいまんがどくほん』
北海道市営競馬協議会, 1978年
- 『靱馬の軌跡』(社)
ばんえい競馬馬主協会, 2001年
- 市営競馬組合資料